

# 研究ノート： イラン経済における女性参加

島 敏 夫

## はじめに

イランの正式国名はイランイスラム共和国である。この名称になったのは1979年のイラン革命以後である。それまでのイランはパーラヴィー王朝第2代目の国王による君主制であった。列強の圧力を受けて国外追放になった父の後を若くして継承した国王は、イラン近代化のために様々な改革を行った。それらの一連の改革は「白色革命」と称されるものであるが、代表的なのは農地改革と女性に参政権を与えたことである。農地改革とは大地主の土地を取り上げ民衆に分け与えるものであるが、イスラム世界では信者から寄進された土地をモスクが大量に保有している。地方豪族だけでなくイスラム関係者も大地主であった。それゆえ、農地改革はイスラムの抵抗にあった。女性に参政権を与え、男女格差をなくするという女性解放政策は、チャドール<sup>1</sup>の着用を禁止した。これらの政策も反イスラム的であるとしてイスラム界から強い抵抗をうけた。つまり、国王時代＝イラン革命以前のイラン社会は国王の強い権力をもって脱イスラムを推進した時代であった。1973年の第4次中東戦争に呼応しておきた第1次石油危機後の原油価格高騰により、イランは石油収入を増大させて経済開発に取り組んだ。雇用が増え、女性の社会参画も増えた。1971年から78年までイランに駐在していた筆者の目には

---

1 チャドールとはイスラム女性が顔から身体を覆うために身につける衣類である。国や地域により多くの種類がある。アフガニスタンでは顔前面まで隠すブルカが、イランでは顔の部分は覆わないチャドールが一般的である。

イラン女性は非常に利発で活発で男性に負けずに主張することができ、どのような職場でも目についたものであった。

Hamideh Sedghi は『Women and Politics in Iran : Veiling, Unveiling, and Reveiling』の中で、次のように述べている。「パーラヴィー時代には 1970 年代前半に急速な経済発展があったが、それとともに女性の労働力の経済に占める割合が大きくなった。アフリカやラテンアメリカに比較してイランには独特のパターンがあった。それは雇用されている女性の殆どがサービス部門に集中したことと、彼女たちのなかで 20 歳から 29 歳の既婚の女性の比率が非常に高いことである。」70 年代の経済発展には女性の中でも特に既婚女性の参画が特徴として指摘している。

国王が強力に推進した経済開発、近代化は 1970 年代後半において、大きな歪みを引き起こすことになった。農地改革に反対して追放されていたホメイニ師が帰国してイラン革命は成就した。そして、イランイスラム共和国が誕生した。国名にイスラムを冠するということは、「ベラヤテファギー」つまりイスラム法による統治国家という意味になる。イスラム復興への道を歩き始めたイラン革命から 30 年が経過する現在、イラン女性の社会における地位はどう変化したのだろうか。筆者はイランにおける女性の地位が社会・経済の中でどのように変化してきたかを目下研究中である。本論は、その中で経済的な側面つまり労働市場における女性の地位と変化について分析するものである。今後、社会参画として教育、保健衛生などの部門での実態を取りまとめたうえで研究を完結させるためのものである。皆様方から意見をいただければ幸いである。

## 1. 人口推移

イランではイラン暦<sup>2</sup>1335年以來定期的にセンサスを実施している。最近のセンサスは1385年に実施された結果、七千万人を超えた。1365年センサスまでは年成長率3.8%、3.1%、2.7%、3.9%と高い増加率で推移したが1375年以後は1%台となり増加率が落ち着いてきた。その状況は図1の人口ピラミッドを見ると明らかである。

中東諸国において7千万人規模の国は他にトルコがあるが、それ以外の国の人口は数十万人からせいぜい3～4千万人である。イランは市場として、同時に、経済発展を支える労働力・人的資源という観点から経済発展の可能性を潜在的に有している。

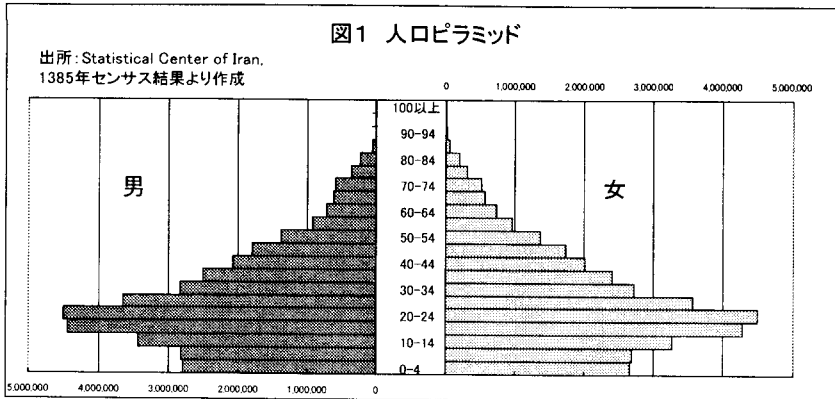
1385年(2006/07)に実施されたセンサス結果から男女別・年齢層別の人口ピラミッドを作成した(図1)。男女とも20～24歳の層がピークを形成しており、次の15-19歳の層とともに男女とも400万人以上が集中している、次に多い年齢層は25-29歳であり、男が366万人、女が356万人である。

表1 人口の推移

年(イラン暦)	年(西暦)	人口(千人)	年成長率(%)
1335センサス	1956/57	18,954	3.8
1345センサス	1966/67	25,789	3.1
1355センサス	1976/77	33,709	2.7
1365センサス	1986/87	49,445	3.9
1375センサス	1996/97	60,055	1.5
1385センサス	2006/07	70,496	1.6

出所: Statistical Center of Iran

2 イラン暦とは毎年3月21日を元日とし、翌年3月20日までを1年とする太陽暦である。イスラムにとって歴史的なヘジュラ(聖遷)の年622年を紀元としている。イスラム世界の多くは622年を紀元とした太陰暦を採用しているがイランは独自の太陽暦を採用している。しかしながら、断食や巡礼などイスラムの諸行事はすべて他のイスラム諸国と同様にイスラム暦に則っている。



1979年の革命以後に生まれた29歳以下の人口が42,645千人となり総人口の60.5%を占めるようになってきている。このことは現在既に顕在化している雇用と失業問題に関わる非常に重要な背景であり、社会不安を引き起こすリスクが潜在している。

## 2. 労働環境の実態

イラン中央銀行発行のA Selection of Labor Force Survey Result, Autumn 2008をみると、2008年の秋時点における労働環境の実態が分かる。

### (1) Economically Active Population (経済活動人口)

経済活動人口とは労働供給を行うすべての人口のことである。具体的にいうと特定の調査対象期間中に就業または失業していた人の総数となる。調査対象期間など国によって定義づけが若干異なる部分がある。イランの場合は調査に先立つ定められた期間に、10歳以上で財やサービスの生産に携わった、あるいは、携わることのできる状態にあった（が、雇用されなかった者も含む）すべての人の総数と定義されている。

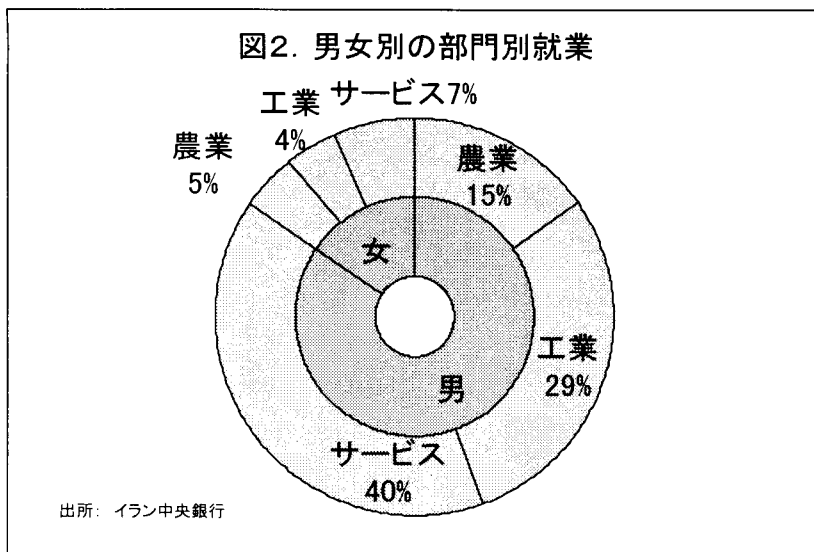
表2によると、イランの経済活動人口は10歳以上人口の36.9%、総数で2,227万人である。うち男性が1,857万人、女性が370万人である。男性は全体の60.9%であり、女性は全体のわずか12.3%にしかすぎない。男女別の人数比は83%：17%となり、経済活動人口は圧倒的に男性が占めている。女性の経済活動への参画の度合いが著しく低い。そのなかで失業状態にあるのが212万人(9.5%)、性別に見ると男性が155万人(8.3%)、女性57万人(15.4%)となる。女性の失業者数は57万人と男性の約1/3であるが、女性の経済活動人口が少なく、その中で15.4%が失業ということは、ここでも女性の雇用が制約されていること表している。また年齢層では15-29歳の部分では155万人が失業状態にあり、失業者全体のほぼ3/4であり、その年齢層の19%という非常に高い状態にある。

雇用サイドからみると農業・製造業・サービス業の三部門での雇用比率は19.9%、33.4%、46.7%である。男性は18.1%、34.5%、47.4%となり、女

表2 2008年秋(9月22日-12月20日)における労働力関連指標

Labor force indicator		Total Country	Male	Female
Economic activity population aged 10 or over	Rate	36.9	60.9	12.3
	Number	22,272,031	18,574,099	3,697,931
Unemployment of population aged 10 or over	Rate	9.5	8.3	15.4
	Number	2,120,464	1,549,985	570,478
Unemployment of population aged 15-24	Rate	21.5	19.2	31.6
	Number	966,742	702,142	264,600
Unemployment of population aged 15-29	Rate	19.0	16.4	30.1
	Number	1,552,343	1,080,631	471,711
Employment in agriculture sector	Rate	19.9	18.1	29.8
	Number	4,009,933	3,078,962	930,970
Employment in manufacturing sector	Rate	33.4	34.5	27.0
	Number	6,723,958	5,879,459	844,499
Employment in services sector	Rate	46.7	47.4	43.2
	Number	9,417,675	8,065,692	1,351,983

出所：イラン中央銀行, A Selection of Labor Force Survey Results, Autumn 2008 (September 22- December 20)



性は 29.8%、27.0%、43.2%である。男性と女性の大きな違いは女性の農業部門での雇用比率が高い点である。

というものの、男性に比べ全体を 100%として男女別に部門別の就業比率を図2に作成してみると、農業部門ですら女性の就業比率は男性の 1/3 程度にすぎない。女性の経済活動参入の程度が非常に低いということが明らかである。

## (2) 失業率

経済活動人口には失業者も含まれる。表2が示す2008年秋の失業率は全体で9.5%、男女別では男性が8.3%、女性が15.4%であった。失業の実態を男女別、都市・地方別に過去8年間で顧みたものが表3である。全体としての失業率は1380年の14.2%から1387年には10.4%にまで下がった。男女別にみても男性が13.2%から9.1%、女性は19.9%から22.4%へ上昇した

表3 男女別・都市農村別失業立の推移（％）

イラン暦	西暦	全体	男性	女性	都市部	地方
1380	2001/02	14.2	13.2	19.9	14.8	13.5
1381	2002/03	12.8	11.2	22.4	14.3	10.9
1382	2003/04	11.8	10.1	21.2	12.8	10.0
1383	2004/05	10.3	9.0	17.8	12.3	6.8
1384	2005/06	11.5	10.0	17.1	13.8	7.1
1385	2006/07	11.3	10.0	16.2	13.4	7.1
1386	2007/08	10.5	9.3	15.8	12.5	6.6
1387	2008/09	10.4	9.1	16.7	12.0	7.2

出所：Statistical Center of Iran 統計資料より作成

あと徐々に16.7%まで低下してきたが、依然として高い比率である。また、都市と地方に分けてみた場合、1380年では14.8%と13.5%と大差はないが1387年では12.0%と7.2%と非常に大きな差が生まれている。

では都市と地方の人口はどのように変化したのかという点についても検証しておこう。イラン暦1375年と1385年のセンサスで比較すると1375年の総人口約6000万人に対して都市人口約3700万人、地方人口約2300万人であった。比率にすると61%対38%であった。非定住者とは遊牧民のように定まった土地に住居を設けていない層である。都市と地方の比率が1385年には69%対31%と、その差が拡大していることがわかる。十年間で総人口は1.17倍に、都市では1.31倍に増加しているが、地方では人口減少となっている。地方から都市への人口移動が進んでいるといえる。従って、都市部よりも地方の失業率が低いということは、単純に地方の雇用条件が良いということではない。仕事を求めて都市部に移動する人の数も多く、都市部に

表4 都市・地方別人口

	全国		都市		地方		非定住	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口		
1375年	12,398,235	60,055,488	7,948,925	36,817,789	4,410,370	23,026,293	38,940	211,406
			64.1%	61.3%	35.6%	38.3%	0.3%	0.4%
1385年	17,501,771	70,495,782	12,405,584	48,259,964	5,074,866	22,131,101	21,321	104,717
			70.9%	68.5%	29.0%	31.4%	0.1%	0.1%

出所：Statistical Center of Iran,

でも仕事にありついていないというのが実態であろう。

(3) 男女別職業分布

男性に比較して女性の就労機会が少なく、失業率が高いということが明らかになったが、職業別に男女差を考察してみよう。

表5 職業分類別男女雇用数(千人) 1375年(1996/97)

	全国			都市		地方	
	全体	男	女	男	女	男	女
Legislators, senior officials and managers (議員・官吏・管理者)	325	283	41	254	38	30	3
Professionals (専門職)	1,263	770	494	638	456	131	38
Technicians and associate professionals (テクニシャン、准専門職)	457	385	73	343	68	41	5
Clerks (クラーク)	614	510	104	442	99	68	5
Service workers and shop and market sales workers (サービス職・販売員)	1,480	1,403	78	1,197	58	206	19
Skilled agricultural and fishery workers (農林漁業熟練者)	3,043	2,788	255	416	17	2,335	235
Crafts and related trades workers (職人・商人)	2,942	2,384	558	1,838	172	546	384
Plant and machine operators, assemblers and drivers (機械オペレータ、組立工)	1,303	1,289	15	932	11	357	3
Elementary occupations (単純作業労働者)	1,931	1,847	84	990	32	843	49
Others and not stated (その他、不明)	1,213	1,149	64	759	39	389	24
計	14,572	12,806	1,765	7,808	991	4,945	766

出所: Salnameye Amari Keshval 1377 (統計年鑑1377年版). Statistical Center of Iran より作成



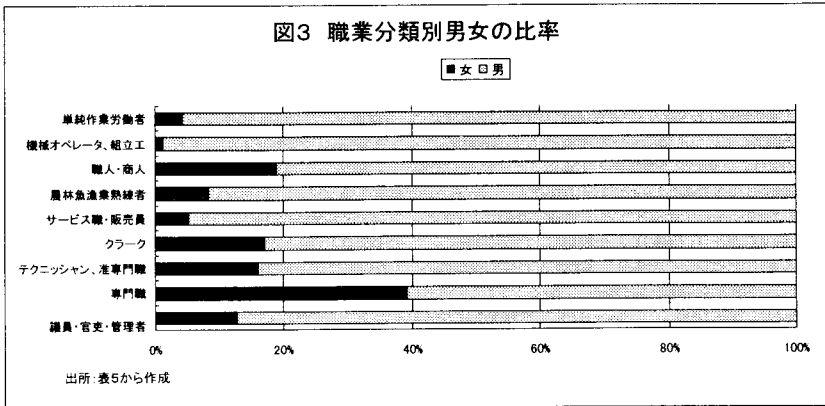


表5は1375年センサスによる職業分類別の男女別雇用の実態である。こうしてみると、女性の比率の高いのは39%の専門職である。そのほかの職業グループでの女性の比率はいずれも20%未満である。西側諸国ではサービス職・販売員のグループは女性の比率が非常に高い分野であるが、この統計ではわずか5%でしかない。女性が人前で男性を含む不特定多数の人々と接することはイスラム世界では一般的でないということであろう。その点、専門職というのは専門的知識を生かす職業分野である。例えば医師もそうであるが、女性患者を女性の医師が診るという点で雇用の場は開かれているのであろう。

### 3. 男女の雇用に関する先行研究の考察

革命以前のイランはシャーの近代化政策の下で女性解放が進められたことは冒頭でも述べた。革命後のイスラム復古の社会でのイラン女性の地位を論ずる文献も徐々に見られるようになった。それらの中に、Parvin Alizadeh 編著『The Economy of Iran, The dilemmas of an Islamic State』(I.B.Tauris Publishers, London/New York, 2000)がある。その中の第8章で Alizadeh

自身が「The State and the Social Position of Women: Female Employment in Post-Revolutionary Iran」を論じている。彼は 1956 年から 1996 年間の 40 年を 76 年までの Feminization Period と、それ以後の De-feminization Period の 2 期に区分している。つまり、76 年までは Feminization が推進された時期、すなわち女性解放が進められた期間であり、それ以後は、それに逆行した期間という意味である。彼がそのように論じた根拠は雇用環境である。次の表 6 は彼の研究を引用したものである。Feminization Period の 1956 年、1966 年、1976 年における雇用に占める女性の比率は 9.7% から 13.27% へ、さらに 19.46% と増加している。このことにより、女性の社会進出が急速に進展した時期と Alizadeh は捉え、86 年の 8.94%、96 年の 12.1% はそれまでのトレンドに逆行する時期 De-feminization Period であるとした。1986 年の 8.94% という値はその時点での 30 年前の 9.7% よりも低く、1996 年の 12.1% は 86 年に比して増加したというものの、その時点での 30 年前の 1966 年の 13.27% よりも低い。つまり、革命後の女性の雇用は 30 年前に後退したといえる。

それでは先に表 2 で示した現状（2008 年秋）との比較を試みるとどうであろうか。Economic activity population から失業者を差し引いた被雇用者の総数 20,151,567 に対して男性 17,024,114、女性は 3,127,453 であ

表 6 a 男女別雇用比率 (%) 1956 ~ 1996 年

	女性	男性	計
Feminization Period			
1956年	9.70	90.30	100
1966年	13.27	87.73	100
1976年	19.46	80.54	100
De-feminization Period			
1986年	8.94	91.06	100
1996年	12.10	87.90	100

出所：Parvin Alizadeh, The economy of Iran, The dilemmas of an Islamic State

原典：イラン統計センター、イラン予算計画庁ほか

る。女性の比率は 15.5% となる。1996 年の 12.1% を上回っているものの、1976 年の 19.46% には、まだまだ差がある。2008 年秋だけの数値では De-feminization 期にあるといえそうであるが、もう少し長期で検証してみることになろう。

表 6b 男女別雇用比率 (%) 2005 ~ 2008 年

イラン暦	西暦	就労者数	男性	女性
1384年	2005-06	20,618,579	80.8%	19.2%
1385年	2006-07	20,841,420	81.0%	19.0%
1386年	2007-08	21,092,477	81.7%	18.3%
1387年	2008-09	20,500,310	83.5%	16.5%

出所: Statistical Center of Iran

Alizadeh の研究は単にイランの実態を観察するだけでなく、それをトルコ、マレーシア、エジプト、パキスタンと比較している点で優れている。トルコとマレーシアはイランに比較的近い中所得国として、またエジプトとパキスタンは低所得国のサンプルとして対象としている。その結果、経済活動人口の分析において、イランは中所得国のトルコやマレーシアではなく、エジプトやパキスタンの低所得国に近いと分析しているのである。Alizadeh はまた、職業の種類別に就労男女の比率を比較している。それによると 1956 年は表 7 の通りである。

表 7 1956 年の職業別男女比率 (%)

	男	女
Professional	80.77	19.23
Administrative	97.42	2.58
Clerical	95.58	4.42
Sales	98.50	1.50
Services	76.08	23.92
Agricultural	95.21	4.79
Production	80.32	19.68
Miscellaneous	99.57	0.43
Total Employment	90.30	9.70
Total Employment (000)	5334.30	573.30

出所: 表6に同じ

これによると、女性の比率が比較的高いのは Professional と Production と Services である。これら3つについて56年から96年までの推移をたどったものが表8である。1996年の分類では Sales と Services が合算されるようになったので、比較のために Sales の項目も掲げた。

専門職(Professionals)は1956年の19%から10年後には26%となり、76年、86年、96年は30%台前半に推移してきた。また、製造業(Production)は20%から25%で推移したが、革命後の86年には6%、96年には11%と低下している。一方、サービス業(Services)の女性比率は1956年の24%から66年22%、76年16%、86年7%、そして96年には販売(Sales)を合わせても5%にまで低下してきた。この点については本論「はじめに」の部分で引用した Sedghi の主張と異なるのであるが、Alizadeh 自身はこの傾向について何も言及していない。筆者は彼の資料を利用して図4を作成した。この図から見える点を以下のように指摘することができるであろう。

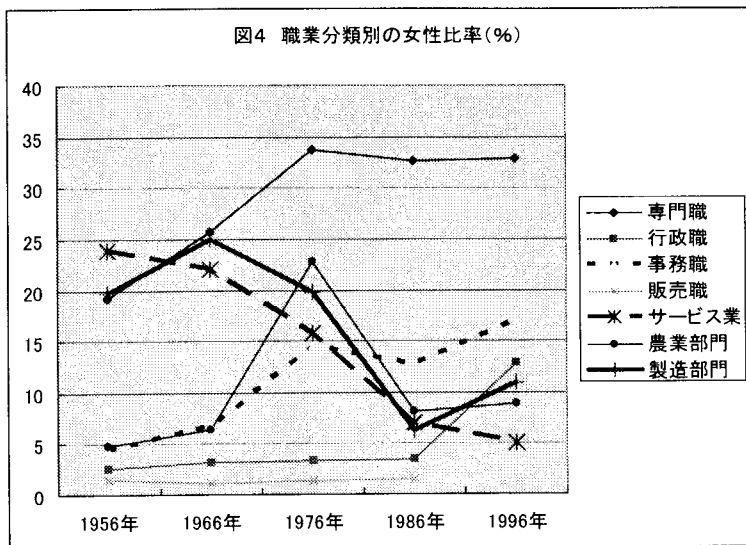
① 66年から76年にむけて農業部門の比率がピークになり、以後急激に減少している点については、国王の農地改革による土地取得者の増加に関係がある。農地改革に伴い農業従事者は増えたが、水の分配が行なわれなかったために土地を手放し農業を離脱する農民が増えたことに呼応している。

② 製造業部門とサービス業部門の就業者数の比率は大きくない。そこで、70年代前半の近代化のなかで女性の事務職の雇用が拡大し、シフトした。また、製造業では拡大したが結果的には男性の比率が上昇した。また、革命後のイスラム復古の波の中で製造業やサービス業に就労する女性が減少した。とい

表8 Professional と Service の女性比率の推移 (%)

	1956年	1966年	1976年	1986年	1996年
Professionals	19.23	25.71	33.78	32.57	32.90
Production	19.68	25.04	19.76	6.33	11.00
Sales	1.50	1.10	1.40	1.49	
Services	23.92	21.98	15.73	7.04	5.10

出所：表6資料から作成



うものの、それを裏付けする資料が不足しているため、この部分については今後の資料分析が必要と考えている。

#### 4. ダンカン指数を用いた性別職務分離の実態

女性と男性の職種分布の不一致の程度を表す指標にダンカン指数がある。ダンカン指数とは次のように示される指標である。<sup>3</sup>

$$S_{it} = \frac{1}{2} \sum_i |mit - fit|$$

ここで、 $mit$  は  $t$  時点における男性就業者全体に占める  $i$  職種の男性就業者の割合を、 $fit$  は  $t$  時限における女性就業者全体に占める  $i$  職種女性就業者の割合を示す。男性と女性の職種分布が完全に一致する場合、ダンカン指数

3 この部分については、労働政策研究・研修機構の堀春彦「雇用環境の変化と女性労働の実態」からダンカン指数の説明部分を引用した。

は0となり、職種分布が完全に分断している場合、ダンカン指数は100となる。ダンカン指数は、男性と女性の職種分布が一致するためには、男性ないしは女性の何%が職種を変えればよいかという値を示す。以下に、理解を深めるために具体的な例を示す。

(例1) 男女の職種分布が完全に一致する場合

性/職種	A職種	B職種	C職種	D職種	職種計
男性	10%	30%	40%	20%	100%
女性	10%	30%	40%	20%	100%

$$S = 1/2 (|10-10|+|30-30|+|40-40|+|20-20|) = 1/2 \times 0 = 0$$

男女の職種分布が完全に一致しているので、ダンカン指数は0となる。

(例2) 男女の職種分布が完全に分断している場合

性/職種	A職種	B職種	C職種	D職種	職種計
男性	60%	0%	40%	0%	100%
女性	0%	30%	0%	70%	100%

$$S = 1/2 (|60-0|+|0-30|+|40-0|+|0-70|) = 1/2 \times 200 = 100$$

男女の職種分布が完全に分断しているので、ダンカン指数は100となる。

(例3) 男女の職種分布が完全に適度に分断している場合

性/職種	A職種	B職種	C職種	D職種	職種計
男性	15%	25%	35%	25%	100%
女性	5%	10%	60%	25%	100%

$$S = 1/2 (|15-5|+|25-10|+|35-60|+|25-25|) = 1/2 \times (10+15+25+0) = 25$$

ダンカン指数は25となる。

それでは、イランのケースはどうであろうか。表9は表5の職業分類別男女別就労者数を男女別に百分率で作成しなおしたものである。Aの行政職については男女とも2%であるが、Bの専門職については男性が7%、女性が29%と女性内部におけるBの比率は非常に高いことが明らかになる。同様にGの職人の比率も高い。というものの、この数値はあくまでも女性内部での比率が高い部門ということではしかない。ここからイランの1375年(1996/97

表9 職業分類別男女就業者数

職業分類	項目	就業者数(千人)			比率(%)		
		男	女	計	男	女	差
A	Legislators, senior officials and managers	283	41	325	2%	2%	0
B	Professionals	770	494	1,264	7%	29%	22
C	Technicians and associate professionals	385	73	457	3%	4%	1
D	Clerks	510	104	614	4%	6%	2
E	Service workers and shop and market sales workers	1,403	78	1,480	12%	5%	7
F	Skilled agricultural and fishery workers	2,788	255	3,043	24%	15%	9
G	Crafts and related trades workers	2,384	558	2,942	20%	33%	13
H	Plant and machine operators, assemblers and drivers	1,289	15	1,303	11%	1%	10
I	Elementary occupations	1,847	84	1,931	16%	5%	11
	以上計	11,659	1,702	13,359	100%	100%	75

年)時点でのダンカン指数は37.5となる。男女間の職種分布が完全に一致するには女性の37.5%が他の職種に移らなければならない程度に分散している。

次に Alizadeh の資料を利用して、過去のダンカン指数も計算するために作成したのが表10である。これにより、1956年から96年のダンカン指数は図5の通りとなる。

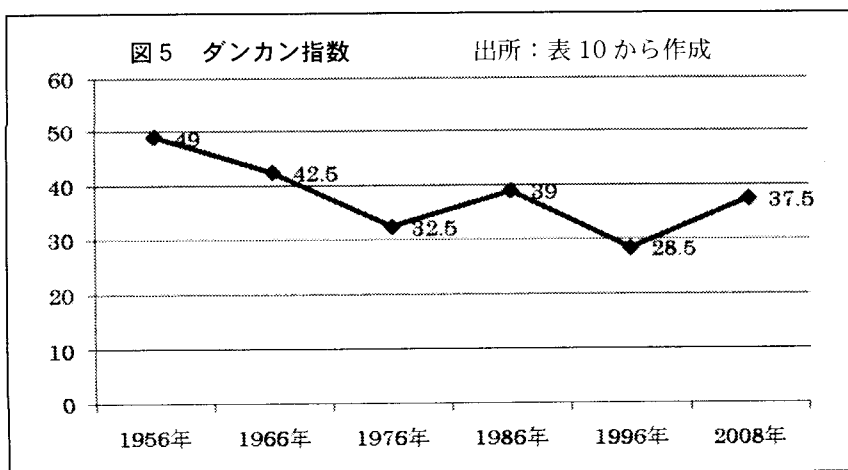


表 10 男女別職種分布 (1956-1996)

	職種別男女比 (%)		職種別男女数 (千人)		男女別職種分布		
	男	女	男	女	男	女	差
Professional	80.77	19.23	595.6	144.0	11%	25%	14
Administrative	97.42	2.58	718.3	19.3	13%	3%	10
Clerical	95.58	4.42	704.8	33.1	13%	6%	7
Sales	98.50	1.50	726.3	11.2	14%	2%	12
Services	76.08	23.92	561.0	179.1	11%	31%	20
Agricultural	95.21	4.79	702.0	35.9	13%	6%	7
Production	80.32	19.68	592.2	147.4	11%	26%	15
Miscellaneous	99.57	0.43	734.2	3.2	14%	1%	13
Total Employment	90.30	9.70					
Total Employment (000)	5334.30	573.30	5334.3	573.3	100%	100%	98

1966年

	職種別男女比 (%)		職種別男女数 (千人)		男女別職種分布		
	男	女	男	女	男	女	差
Professional	74.29	25.71	629.4	242.1	11%	27%	16
Administrative	96.74	3.26	819.5	30.7	14%	3%	11
Clerical	93.18	6.82	789.4	64.2	13%	7%	6
Sales	98.90	1.10	837.9	10.4	14%	1%	13
Services	78.02	21.98	661.0	207.0	11%	23%	12
Agricultural	93.60	6.40	793.0	60.3	13%	7%	6
Production	74.96	25.04	635.1	235.8	11%	26%	15
Miscellaneous	93.61	6.30	793.1	59.3	13%	7%	6
Total Employment	86.73	13.27					
Total Employment (000)	5958.40	909.90	5958.4	909.9	100%	100%	85

1976年

	職種別男女比 (%)		職種別男女数 (千人)		男女別職種分布		
	男	女	男	女	男	女	差
Professional	66.22	33.78	743.7	525.2	10%	28%	18
Administrative	96.66	3.34	1085.6	51.9	14%	3%	11
Clerical	85.52	14.48	960.5	225.1	13%	12%	1
Sales	98.60	1.40	1107.4	21.8	14%	1%	13
Services	84.27	15.73	946.4	244.6	12%	13%	1
Agricultural	77.19	22.81	866.9	354.7	11%	19%	8
Production	80.24	19.76	901.2	307.2	12%	17%	5
Miscellaneous	92.43	7.57	1038.1	117.7	14%	6%	8
Total Employment	80.54	19.46					
Total Employment (000)	7649.70	1848.30	7649.7	1848.3	100%	100%	65



1986年

	職種別男女比 (%)		職種別男女数 (千人)		男女別職種分布		
	男	女	男	女	男	女	差
Professional	67.43	32.57	936.0	424.6	9%	43%	34
Administrative	96.55	3.45	1340.3	45.0	13%	5%	8
Clerical	87.27	12.73	1211.4	166.0	12%	17%	5
Sales	98.51	1.49	1367.5	19.4	14%	2%	12
Services	92.96	7.04	1290.4	91.8	13%	9%	4
Agricultural	91.93	8.07	1276.1	105.2	13%	11%	2
Production	93.67	6.33	1300.3	82.5	13%	8%	5
Miscellaneous	95.97	4.03	1332.2	52.5	13%	5%	8
Total Employment	91.06	8.94					
Total Employment (000)	10054.30	987.10	10054.3	987.1	100%	100%	78

1996年

	職種別男女比 (%)		職種別男女数 (千人)		男女別職種分布		
	男	女	男	女	男	女	差
Professional	67.10	32.90	1415.9	623.7	11%	35%	24
Administrative	87.20	12.80	1840.0	242.7	14%	14%	0
Clerical	83.00	17.00	1751.4	322.3	14%	18%	4
Sales and Services	94.90	5.10	2002.5	96.7	16%	5%	11
Agricultural	91.10	8.90	1922.3	168.7	15%	10%	5
Production	89.00	11.00	1878.0	208.5	15%	12%	3
Miscellaneous	94.70	5.30	1998.3	100.5	16%	6%	10
Total Employment	87.90	12.10					
Total Employment (000)	12808.40	1763.10	12808.4	1763.1	100%	100%	57

出所：表6に同じ

## 5. 結論

図5をみると、1956年から76年、つまり革命前までは国王の近代化政策のなかで経済成長がすすみ、それに呼応して男女の職種別集中度が分散する傾向にあったことが明確である。1979年の革命後、すなわちイスラム復興が進展するなかでダンカン指数は上昇した。このことは女性の進出分野が限定されるようになったことを意味する。1986年から96年に向けて指数が低くなっている。この指数が下降している時期には1989年にラフサンジャニー大統領が就任し1998年8月までの2期を勤めている。彼は現実派政治家と評されたが、対米融和、女性の権利拡大、音楽や映画の規制緩和などに取り

組んだ。そのような政策がこの指数に表れているといえるであろう。また、その後の、改革・開放政策を期待されて大統領に就任したハタミ大統領は非常に人気があったというものの、現実には保守派勢力の圧力を受けて、国民の期待を裏切った結果になった。それを反映して、指数は現在に向けて上昇してきている。現在のイランイスラム共和国における女性の社会参画の流れは完全に de-feminization 期にあるということが検証できた。

## 参考文献

Hamideh Sedghi, *Women and Politics in Iran, Veiling, Unveiling, and Reveiling*, Cambridge, New York, 2007

Parvin Alizadeh, *The Economy of Iran, The Dilemmas of an Islamic State*, I.B.Tauris, New York, 2000

Iran Statistical Year Book 1383, Statistical Center of Iran

Iran Statistical Year Book 1377, Statistical Center of Iran

Annual Review 1386(2007/08), Central Bank of the Islamic Republic of Iran

A Selection of Labor Force Survey Results, Autumn 2008(September 22-20 December, Statistical Center of Iran

A Selection of Labor Force Survey Results 21 March 2005 - 20 March 2009, Statistical Center of Iran

-**1386** سالنامه آماری کشور، 1386 年度統計年鑑、Dargah-e-Meli Iran,